

1 研究の概要

(1) 研究主題

『学校生活を豊かにする自治的能力と人間関係力を身につけた子どもの育成』
～望ましい話し合い活動の実践を中心として～ 2年次

(2) 主題設定にあたって

◇望ましい話し合い活動のとらえ方

【事前指導】

- 司会団：板書の仕方・司会の仕方について確認・指導をする。
- 議題提案：提案した理由などを明確にする。
- 話し合いまでに：各自が議題についての意見を持つために、「学級会カード」に自分の考えをまとめる。意見を分かりやすく伝えるために、絵を描くなどの工夫をする。



【話し合いのはじめに】

- ・条件の確認、話し合いのめあての確認を行う。
- ・話し合いの柱を提示しておく。



【話し合いにおいて】

司会団

- ・進め方マニュアルを参考に会を進めることができる。
- ・全員が発言できるような投げかけができる。
- ・ある程度、時間配分に気をつけて進める。
- ・出された意見を整理しながら話し合いを進める。

フロア団

- ・自分の意見をはっきりと言うことができる。
- ・自分の意見の理由を言うことができる。
- ・話をしている人の方を見て聞く。
- ・困っている人のフォローができる。

教師の出番

- ・低学年の場合、話し合いの柱からずれないように適宜、入って軌道修正等を行う。
- ・自分の意見が採用されなかった児童がすっきりと話し合いを終わることができるように配慮したり、適宜、話し合いに入ったりする。
- ・気になる発言、おかしい発言、中途半端な発言などが合った場合に適宜入る。
- ・質問の答えにすんなりと「分かりました」と言っている時に、「本当？」と問いかける。(高学年は、司会者が行う)



【事後】

- 各自が話し合いの振り返りを記録する。
- 評価は①司会と書記に+評価。②フロアに1つ。あるいは、時間を短くするために、③その場で、各学級で集まって評価する。(全校話し合いの場合)

◇学校経営の重点から

- 確かな学力（自ら学ぶ子）
- 豊かな心（関わり合える子）
- 基本的な生活習慣と規範意識（あいさつができる子）
- たくましい心と体（たくましくねばり強い子）

①自治的能力を高める。

- 児童会活動等の段階的指導
- 話し合い活動における進行の計画的指導
- 話し合い活動の計画的実施
- 楽しい学校作りのための「お助けポスト」の充実

②人間関係力を高める。

- 全校・地域・幼稚園等との交流
- ロング昼休みに全校遊びを実施
- 人権・同和教育の取組の家庭・地域への発信

◇児童の実態から

本校の児童は、豊かな自然と温かな地域の人々に囲まれた環境の中で育ち、素直で真面目である。少人数での生活では、地域の方との交流も多く、地域の方と共に子どもを育てるという雰囲気もある。しかし、日常の学校生活においては、互いをよく知っているため、言いたいことを全部言わず、内に秘めてしまうので、そのことがトラブルのもととなることもある。言われたことを素直に受け止め、きちんとやり遂げようとする反面、切磋琢磨することが少なく、自分の考えで主体的に行動できない指示待ちの子どもが多い。

そこで、これらの課題を踏まえて、よりよい学校生活づくりのための話し合い活動を積み重ねることを通して、一人一人の自治的能力や人間関係力を高めることを目指して、研究主題を設定した。また、来年度の統合を控えて、集団の中でも個を出すことができる力をつけるための取組を重点におき研究を進めていきたいと考えた。

(3) 研究のねらい

よりよい学校生活作りのための話し合い活動を積み重ねることを通して、一人一人の自治的能力と人間関係力を高める。

(4) めざす児童の姿

- 日常の生活や学習に進んで取り組もうとする子
- 集団の一員としてよりよい学校生活作りに積極的に参加しようとする子
- 諸問題の解決や決定事項にたどり着くまで真剣に話し合おうとする子
- 自ら関わり合い、互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができる子

(5) 研究の仮説

○ 知的好奇心をくすぐるような生活・学習環境を整えれば、日常の生活や学習に進んで取り組むことができるようになるであろう。

○ 各教科・児童会活動・学校行事と関連づけ、児童が主体となって行う様々な体験活動や集団で活動する場を設定すれば、集団の一員としてよりよい生活作りに積極的に参加しようとするであろう。

○発達段階に応じた話合いの仕方を身につけ、話合いの経験を積み、自分を安心して出せる学級ができていれば、諸問題の解決や決定事項にたどり着くまで真剣に話し合おうとするであろう。

○日常的な縦割り班での活動、異学年との交流、地域・幼稚園児との交流の機会や場を多様に設定し、関わったときの感動を表現することを積み重ねれば、自ら関わり合おうとすることができるようになるであろう。

(6) 研究の内容

- ① 児童の実態把握と分析・考察
- ② 話合い活動を通じた関わり合う力を育てるための授業実践
- ③ 全校での児童会活動など人間関係力を育てるための取組
- ④ 集団の中で個を出す（個の力をつける）ための取組
- ⑤ 先進校の研究視察

(7) 研究の方法

- ① 事前・事後に以下のもので検証を行い、児童の変容等をみる。
 - ア アンケート
 - イ QU検査
 - ウ 学級会カード
 - エ 話合いチェックカード
- ② 学級の研究計画の作成と授業研究
 - ア 全体の研究計画をもとに、各担任がそれぞれの学級の研究計画を作成する。話合い活動でめざす児童の姿を、各学年に応じてさらに具体化し、日々の実践を積み上げる。
 - イ 各学級の授業を提供し、授業研究を行う。
- ③ 全校での取組
 - ア 児童会活動等の段階的指導
児童総会の司会者は輪番とし、司会進行のマニュアルをもとに進行できるようにする。
 - イ 話合い活動における進行の計画的指導
発達段階に応じた司会者・記録者のマニュアルを作成し、児童の手で進められるようにする。
話合いを充実させるためのワークシートを作成し、活用する。
 - ウ 楽しい学校作りのための「お助けポスト」の充実（生活委員会が中心となり進める）
みんなで楽しめる企画を募集し、実施する。
 - エ 全校・地域・幼稚園等との交流
各学級で計画を立て、実施する。
- ④ 発言できにくい子の支援法の探究
 - ア 個の変容追跡
どのような手立てによりどのように変容したか1年間追跡する。有効だった手立てと該当児童の変容について情報交換を行う。
 - イ 自分の意見を堂々と言うことができるための手立ての探究
声を大きく出すトレーニング、学級経営、話合い活動、感想発表の工夫等を通して行う。
- ⑤ 先進校を視察後、内容について報告を行い、研究の参考とする。

2. 実践計画

月	主な内容	主な行事
4	【研究の基盤作り】 ○全体計画・年間指導計画の作成 ○研究主題等検討	入学式（9日） 全国学力調査（20日） 授業公開（23日）
5	【基礎研究】 ○研究構想作成	島根県学力調査（11・12日） 連合運動会（15日） 田植え（19日）
6	【実態把握】 ○Q U 検査の実施	遠足（3日） すくすく委員会・プール掃除（13日）
7	【取組の確認】 ○1学期の取組の反省と情報交換	児童総会（13日） 個人懇談（14日） 学童水泳大会（25日）
8	【基礎研究】 ○先進校の研究視察・報告	第2学期始業式（30日）
9	【研究の分析・考察】 ○2学期の方向性、Q U 検査結果の情報交換について 【授業研究会（1）】 ○指導案審議、研究授業、研究協議（5・6年） ○指導案審議（1・2年）	稲刈り（6日） みどりの作文コンクール （ふるさと文芸賞）
10	【授業研究会（2）】 ○訪問指導（研究授業）、研究協議（1・2年）	地区民体育大会（3日） 読書感想文（5日） 体操競技大会（9日）
11	【授業研究会（3）】 ○指導案審議、研究授業、研究協議（3・4年）	連合音楽会（10・11日） 学習発表会、産業文化祭（21日）
12	【取組の確認】 ○2学期の取組の反省と情報交換 ○Q U 検査の実施	個人懇談（17日） 読書感想画コンクール（下旬）
1	【個人研修】 ○Q U 検査の分析・考察・検証 ○実践のまとめ作成	第3学期始業式（7日） スキー教室（27日）
2	【研究のまとめ】 ○実践記録の作成	読書ノート審査会（上旬） すくすく委員会・教育講演会（20日）
3	【来年度の方向】 ○次年度の方向検討	児童総会（11日） 卒業式（15日） 修了式・お別れ式（18日）